

埼玉医科大学病院ニュース

第80号

—メディカルスタッフ特集—



ゆい

患者さんと医療者を結ぶ情報誌

CONTENTS

ページ 2 ~ 5

中央検査部紹介

ページ 6 ~ 7

中央病理診断部紹介

ページ 8 ~ 10

中央放射線部紹介

ページ 11

アスリート通信

埼玉医科大学グループアスリートクラブ

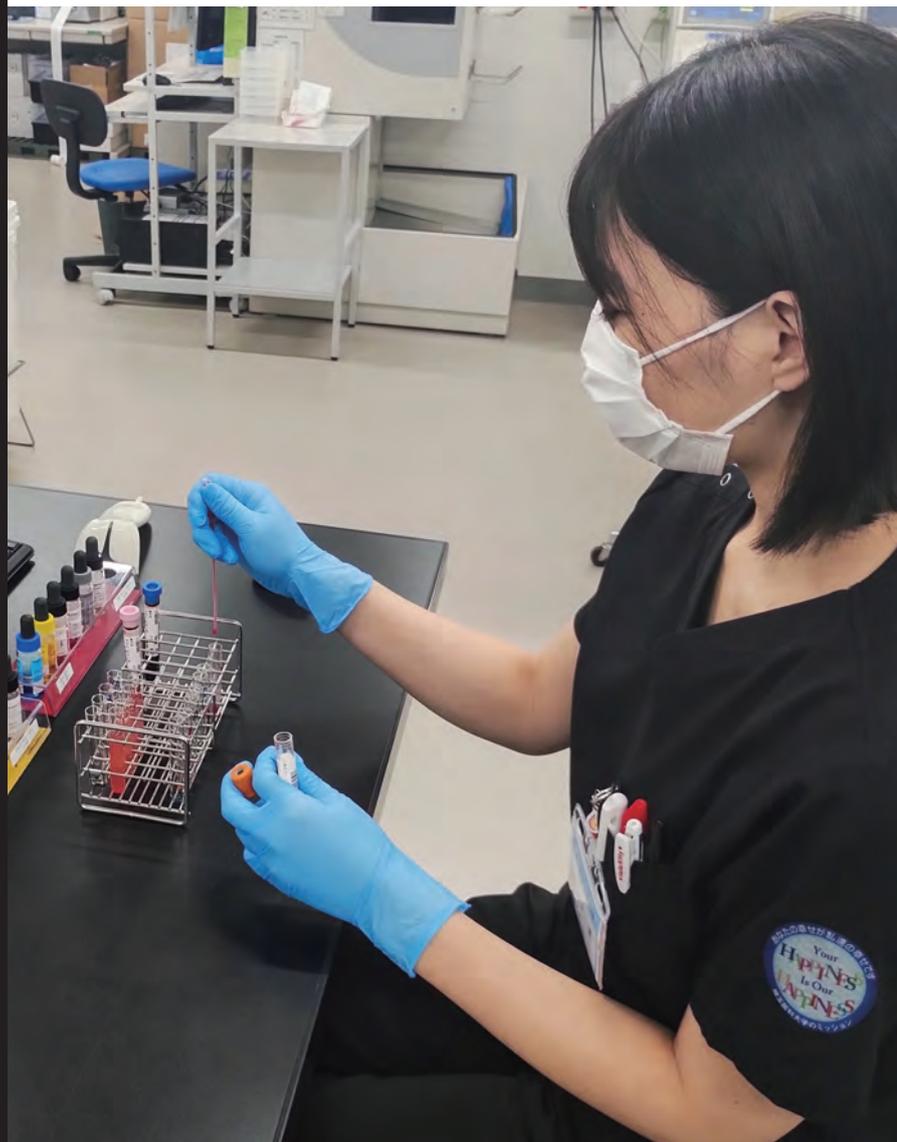
ページ 12

基本理念

外来受診のご案内

新型コロナウイルス感染症に対する対応

外来駐車場のご案内



合言葉は
あなたの幸せが
私たちの幸せです

Your
HAPPINESS
Is Our
HAPPINESS

中央検査部紹介

ご挨拶



中央検査部 技師長代行
松岡 優

【はじめに】

埼玉医科大学病院ニュースをご覧いただき誠にありがとうございます。ここでは埼玉医科大学病院中央検査部を紹介いたします。当院中央検査部では、**臨床検査技師 73 名、胚培養士 1 名、看護師 5 名、事務員 3 名、業務員 3 名**の職員が働いています。このように中央検査部では多くの臨床検査技師が働いています。しかし、2023 年に一般国民 1000 名へのアンケート調査を実施したところ、私たち臨床検査技師の認知度は 22.7%という報告がありました。まだまだ患者さんの認知度は低い職種ですが、病院内で様々な業務を行い、多岐に渡る検査を行っています。近年では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、臨床検査技師による核酸検出検査（リアルタイム RT-PCR 等）、抗原検査（定性、定量）が実施され、脚光を浴びたことは記憶に新しいことと思います。遺伝子を増幅、複製をしてウイルス感染の有無を調べる核酸検出検査、人工的に新型コロナウイルスの抗体をつくり、それに抗原が反応するかどうかを調べる抗原検査、これらの検査を行うために、喉や鼻に綿棒を入れて検体採取を

行うことができるのは、医師（歯科医師含む）・看護師・臨床検査技師です。

臨床検査技師の仕事は大きく3つに大別されます。「**検体検査**」「**生理機能検査**」「**採血**」です。検体検査は、採取した検体（血液や尿、身体組織など）を検査し、精度の高い検査データを医師に提供する部門です。生理機能検査は、医療機器（心電計や超音波機器）を使用し、直接的に患者さんの体を検査し、データを医師に提供する部門です。これらの「臨床検査データ」は、病気の診断、治療効果の判定、薬の副作用の監視など医療や臨床研究の基盤として、必要不可欠となっています。また検体検査のスタート部分に該当する採血業務を採血室にて行っています。一部看護師による採血が行われていますが、外来患者さんの多くは臨床検査技師が採血を行っています。

当院中央検査部の特徴として「**エンブリオロジスト（胚培養士）**」として顕微授精や人工授精に携わっているスタッフ、またタスクシフトの一環として活躍の場を救急外来に移して、**超音波検査、静脈路のライン確保などを行っている臨床検査技師**もいます。

中央検査部では、迅速な検査実施と高精度の検査情報の提供、高品質なサービスの継続的な提供のため、機器・試薬の適切な管理と関係スタッフの知識と技術の向上に日々努めております。

身近な所で働いている臨床検査技師、今後も中央検査部をよろしくお願いいたします。以下に検査室を紹介します。



業務紹介

【検体検査部門】

検体検査ユニットは採血室や病棟で採取された血液や尿、便などの検体を、自動分析装置で測定する分析部門と顕微鏡を使った形態部門で構成されています。

分析部門では、貧血検査、肝機能・腎機能検査、脂質異常症や糖尿病検査、内分泌ホルモン検査、腫瘍マーカーなど様々な検査項目を測定しています。臨床検査技師は分析機器の精度管理やメンテナンスを行い、**正確な結果を迅速に提供する**よう努めています。



形態部門では、目では見えない血液中の細胞や尿中の細胞成分などを観察します。長く培ったノウハウを駆使し、洞察力と細かな観察力で**病気を見つけ出す**検査領域です。

【生理機能検査部門】

生理機能検査室は（心電図・呼吸器能）、（心臓・血管超音波）、（腹部・表在超音波）、（脳波・筋電図）4部門に分かれ28名の技師で日々の検査業務を行っています。今回、脳波・筋電図部門の紹介を行います。脳波検査は頭皮上に24個の電極を装着し



て脳の電気活動を記録し、脳の活動状態を調べる検査です。てんかんなどの発作性意識障害の鑑別に有用です。脳波部門では、通常脳波検査に加え「てんかんセンター」と協力し、長時間ビデオ脳波検査（小児1床、成人2床）の他に てんかん手術に帯同し、術中脳波検査を行っています。また、月に一度行われる「てんかんセンターカンファレンス」にも積極的に参加し、てんかん診療に関わる全ての職種（医師、薬剤師、看護師等）と意見交換を行い連携を深めています。学会、資格取得にも積極的に参加し日々研鑽しながら、**質の高い安心安全な検査を提供**してまいります。

【輸血細胞移植部】

「輸血」という言葉を聞いてどのようなイメージをお持ちになりますか。輸血は外傷による出血や手術の他、がんや血液疾患によって血液を作ることができなくなった患者さんに対して不足した血液成分を補うために行われます。この他、移植治療や心臓手術、救急医療などの高度医療は輸血なしで行うことはできません。日本で血液製剤が最も使用されているのは血液がんを含めたがん患者さんです。



日本で輸血に使われる血液製剤はすべて献血によって賄われています。献血血液は血液センターに運ばれ、製剤に加工されて医療機関に届けられます。当院に届く製剤は東松山市にある埼玉製造所で製造されています。これら一連の工程は日本赤十字社の血液事業として行われています。

輸血を受ける際は医療機関でいくつかの検査が必要になります。最も重要な検査は ABO 血液型と Rh 血液型の血液型検査です。この2つの血液型が異なる製剤を輸血すると重症の輸血副反応が起こります。血液型はその他にも 400 種以上知られていますが、通常これらを調べる必要はありません。しかし、血液製剤中の赤血球に反応する物質（不規則抗体）を持っていると輸血副反応を起こす可能性があるため、不規則抗体検査や輸血製剤と患者さんの血液の反応を調べる検査（交差適合試験）によって確認することが重要です。

輸血をすると 1-2% の頻度で輸血副反応が生じることがあります。その 9 割はかゆみや発疹、発熱などのアレルギー反応ですが、稀に血液製剤に細菌混入や供血者血液中の抗体が重篤な輸血副反応を引き起こすことがあります。輸血後肝炎は検査技術の向上によって格段に減りましたが、それでも輸血後 B 型肝炎のリスクはゼロではありません。

当院の輸血部では**患者さんに最も適した血液製剤**をお届けするための努力を日々続けていますが、その他にも輸血副反応が発生した場合はその状況を確認して対応策のアドバイスをしています。また院内には輸血チームがあり、輸血が安全で適正に行われているかをパトロールしています。

【胚培養部門】

「私たちは普通の人間です。ただ生まれてくるのに科学の力を少し必要とただけなんです。」

世界ではじめて体外受精で生まれた方の言葉です。

体外受精とは、精子と卵子を体外で受精させて子宮に移植する不妊治療のことです。

胚培養部門では不妊治療の業務を行っています。顕微授精という、精子を吸った針を卵子に刺して受精を促す操作などを行います。受精卵は細胞分裂を繰り返して発育します。発育の様子を観察し、液体窒素で凍結、解凍して子宮の中に移植します。

日本では 2022 年 4 月から公的医療保険の適用対象となりました。そして 2022 年に生まれた赤ちゃんのうち、およそ 10 人に 1 人が体外受精で生まれた計算となり、割合は年々増えています。

赤ちゃんを抱っこできる未来を祈って。**小さな命の萌芽を身近に感じる愛にあふれるはじまりの場所**です。

患者さんとお会いする機会はあまりありませんが、寄り添える技師でありたいと思っています。



職員紹介

■新人技師

山下 愛（2024 年入職）

私は 2024 年 4 月に中央検査部に入職しました。正確で信頼性の高い検査結果を迅速に提供し、病気の早期発見や治療に貢献する臨床検査技師として、チーム医療に従事したいと考えています。

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が流行り始めた際、メディアでは未知のウイルスに関する情報が限られている中



で、日々戦う臨床の現場が報道されていました。慣れない防護服やシールドを着用し、採血や検体採取の業務を行っている姿。感染者が急増する中で、一件ずつイムノクロマト法やPCR検査を実施する姿。また、院内感染を防ぐために感染対策を徹底し、安全な環境の確保に尽力する姿など、混乱する医療の最前線で「臨床検査技師」としての役割を全うする先輩方に深く感銘を受けました。そのような姿を見て、私も将来この分野で医療に貢献したいという強い決意を抱くようになりました。

現在、臨床検査技師となり、検査結果が患者さんの診断や治療方針に直接影響を与えるため、**検査の正確性や迅速性がいかに重要であるか**を改めて実感しました。そのため、当院で急性期から慢性期まで幅広い症例に触れ、最先端の医療技術や先進医療に取り組むことで色んな経験を積み、専門知識の更新や技術の向上に努めたいと考えています。また、資格取得を目標にしてスキルアップを図り、自己成長にも繋げていきたいと思っています。

最後に、新型コロナウイルスのパンデミックを通じて学んだことは、どんな困難な状況でも患者さんとその家族のために最善を尽くす姿勢の大切さです。“Your Happiness is Our Happiness”の思いを胸に、チーム医療の一員として患者さんに還元したいと考えております。

■先輩技師

野村 和弘（2016年入職）

二級臨床検査士（循環生理学）緊急臨床検査士、認定救急検査技師、超音波検査士（心臓・血管）、心不全療養指導士、ICLSコース、ACLS Provider、MCLS、急性期ケア専門士

私は臨床検査技師として、大学卒業後の3年間、化学免疫検査に従事しました。その後、現在に至るまで生理機能検査室で心臓および血管の超音波検査を担当しています。幼少期から医療系の職種に憧れがあり、高校生の時に臨床検査技師の仕事を知り、この道を志しました。

2023年5月からは、救急センターの診療チームの一員として活動を開始しました。救急検査技師には、**救急診療の情報を迅速に把握し、患者さんに対して現状の検査機器を有効に用いて、安全かつ的確な検査を行う高度な技術や知識**が求められます。つまり、広範な知識を持つジェネラリストでありながら、専門的なスキルを持つスペシャリストでもある必要があります。

また、令和6年度の能登半島地震に際しては、日本医師会災害医療チーム（JMAT）の一員として被災地の避難所で医療支援を貢献することができました。臨床検査技師としての多様なスキルを活かし、救急医療だけでなく災害医療にも積極的に貢献していきたいと考えています。

救急医療における臨床検査技師の重要な役割は、医師や看護師など他の医療従事者とチームとして連携し、患者さん一人一人と向き合うことです。救急センターでの勤務を通じて、他の医療従事者にも臨床検査技師の重要性を伝え、専門職としての役割を広く理解されるよう努めていきます。

【患者さん・ご家族へ】

精度の高い検査、迅速な結果報告で病気の診断や治療に貢献しています。患者さん・ご家族に安心、安全な医療を提供できるよう努めます。検査をするうえで食事の制限などをお願いすることがありますがご協力をお願いします。



中央病理診断部紹介

ご挨拶



中央病理診断部 係長
土居 美枝子

この度はこのような機会をいただきありがとうございます。中央病理診断部の臨床検査技師・細胞検査士の土居と申します。現在当部署は山田健人部長の元、常勤の病理医5名と歯科医師1名、11名の臨床検査技師（内5名は細胞検査士取得者）で構成され、他に非常勤の病理医や病理学教室のスタッフにご支援頂いております。

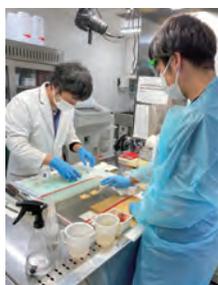
今回はメディカルスタッフ特集（臨床検査技師…）とのことで、僭越ながら土居が、病理って何？の疑問にお応えすべく、業務内容をご紹介させていただきます。

中央病理診断部は実際に患者さんご自身と対面はほぼないものの、実は病気の確定診断を行うための重要な部署です。「組織または細胞をとって調べてみましょうね」の検体提出先が中央病理診断部になります。そのように病理検査は患者さんから採取した臓器・組織・細胞などを顕微鏡で観察し、癌などの様々な疾病の診断や病態評価を行う検査です。病理組織検査、細胞診検査があり、近年では分子標的薬という薬剤の標的となる遺伝子やタンパク質を調べる検査にも携わっています。



業務紹介

■**病理組織検査** 内視鏡や手術で取り出した臓器や組織を調べるための標本作製を行います。切り出し、包埋、薄切、染色、の過程を、検体交差をおこすことのないよう1検体1処理で迅速かつ丁寧にいき、完成した標本を病理医が診断します。必要に応じて特殊染色や免疫組織化学染色、電子顕微鏡検査等を行い、病理組織検査の結果報告には、通常でおよそ3～7日間要し、更に検索が必要となる場合もあります。



切り出し



包埋



薄切

写真の説明

切り出し：ホルマリン固定後に病変部等を診断に適する方向や大きさに切り出します。

包埋：薄切には硬さが必要なため、検体組織から完全に水分を除去（脱水）し、パラフィンを浸透させパラフィン包埋ブロックを作製します。

薄切：ミクロトームを用いて3 μ mの厚さに薄切し（※食品用ラップの厚さは約10 μ m）、スライドガラスに貼り付けます。

染色：ヘマトキシリン・エオジン染色（HE染色）を行い、細胞の核をヘマトキシリンで青紫色に、細胞質をエオジンで桃～赤色に染め分けます。

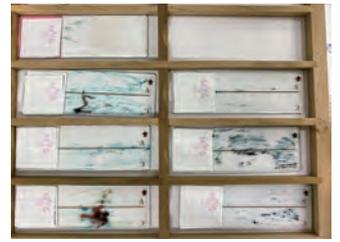


染色



HE染色標本

■**細胞診検査** 婦人科検診や尿・喀痰・体腔液などに含まれる細胞、病変部から採取した細胞を顕微鏡で調べます。組織検査よりは侵襲の少ない検査で悪性細胞の有無を検査できます。検体処理後、基本となる Papanicolaou 染色や特殊染色を行います。細胞検査士によってスクリーニングが行われ、異型細胞等を検出し良性 / 悪性の判定を行っています。細胞診検査の結果報告は、通常およそ 2～4 日間要し、更に検索が必要となる場合もあります。



■**病理解剖** 病気のために亡くなられた患者さんのご遺体をご遺族の了承のもとに解剖し、臓器、組織、細胞を直接観察して詳しい医学的検討を行います。これによって全身の病態の理解を通じて死因を正しく把握し、診断・治療における医療の質保証をすることができます。

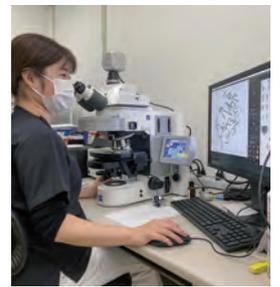


■染色体検査



阿部 楓 (2019年入職) 遺伝子分析化学認定士初級・認定臨床染色体遺伝子検査師

染色体とは、体を構成する細胞の設計図になります。採血された血液を培養し顕微鏡下で染色体の数や構造を調べ、診断に役立てています。検査は疾患の診断に直結する場合も多く、遺伝学的な検査のため、他職種との連携をとりながら検査結果を出しています。担当医や諸先輩方のご指導のもと研鑽に励み、責任をもって検査を行っております。これからも信頼できる検査結果を受け取ってもらえるよう、日々精進して参ります。



職員紹介



■**新人技師 本田 佳蓮 (2024年入職)**

私は学生時代、病理学に苦手意識がありましたが、臨地実習中の際、患者さんの本物の組織を扱うという責任と、確定診断になるという重要性を感じ病理の魅力を知りました。現在は標本が完成した時の達成感や、自分が作成した標本をもとに診断がされているという重責とやりがいを感じながら、適切な標本作製ができるよう努力しています。疾患や検査の知識を増やし丁寧かつ迅速に業務を行うことを目標にして、日々精進していきます。



■**先輩技師 細沼 沙紀 (2005年入職) 二級臨床検査士病理・細胞検査士・認定病理検査技師**

入職後標本作製の技術向上等の研鑽を積み、研修会や学会などに参加し知識を得るようになると、病理診断が治療方針の決定に重要な役割を担うことを実感しました。現在では細胞検査士としても日々の業務に励み、病気の早期発見に貢献できたときはやりがいを感じます。患者さんの組織や細胞と、顕微鏡を通して向き合うことで病状の改善に貢献していきたいと思えます。

患者さん・ご家族へ

適切な治療のためには病変部の詳細な組織型等の病理診断が不可欠です。検査材料を採る際には不安もあるかもしれませんが、安心して治療に臨めるように、当病理診断部では医療安全に努め、職人技ともいわれるプロフェッショナルな技術者によって迅速かつ丁寧に標本作製を行い、正確な診断につながるよう今後も精進して参ります。何かご不明な点がございましたら担当医または主治医にご相談下さい。



中央放射線部ご紹介

ご挨拶



中央放射線部 技師長
平野 雅弥

中央放射線部は松成一朗部長のもと、**医師、診療放射線技師、看護師、事務員**が協力し、安心安全で満足度の高い検査や治療を目指しています。

主な業務は画像検査、核医学診療、放射線治療、放射線管理です。本館・南館の地下1階、本部棟地下2階、東館グランドフロア、人間ドックにあるX線検査室等に分かれ、現在**54名の診療放射線技師**で業務にあたっています。

最近では人工知能を備えた装置も導入し、より**迅速で精度の高い検査**を行っておりCTやMRIなどの大型装置を最大限に活用するため最新の技術と設備を駆使して患者さん一人ひとりに最善の検査が行えるよう日々努力しています。

また、全ての画像がデジタル化され高画質を保ちながら**適正な放射線被ばく管理**も行っており、可能な限り低い放射線量での検査を心掛けていますので、安心して検査を受けてください。



業務紹介

【一般撮影（レントゲン）・透視撮影部門】

< 一般・透視撮影 >

一般・透視撮影部門は本館地下1階に位置し、胸部や腹部のX線撮影をはじめ骨、全脊椎、歯科撮影及び胸部X線動態撮影等の特殊検査も行っています。透視検査ではバリウム検査、脊髓腔造影、子宮卵管造影等を行っています。全撮影室で、より高画質で短時間撮影が可能なFPD（Flat Panel Detector）を導入しています。**1日あたりの件数は最大300件**近くあり、患者さんの診断、治療がスムーズに行えるよう迅速かつ正確な画像の提供に努めています。

< マンモグラフィ撮影 >

マンモグラフィ検査は、乳がんの早期発見を目的とした乳房のX線撮影です。乳がん検診等で要精査となった患者さんの精密検査や手術後の定期検診などを行っています。当院のマンモグラフィ検査は、全て女性技師が担当しております。安心して検査を受けて頂けるよう、**患者さんの不安に寄り添いながら撮影する事**を心がけています。

< 骨塩定量検査 >

骨塩定量検査は、骨を構成しているミネラル類（カルシウムなど）の量を測定する検査です。骨密度を数値化することで骨量の減少を早期に発見し、骨粗鬆症の適切な予防や治療を行う事が可能となります。

また、近隣の病院からの委託検査やC@RNA（地域医療連携サービス）も行っており、**地域医療にも貢献**しています。

一般・透視撮影部門では、検査が初めてのお子様や立ち上がることが難しい方にも安心して検査を受けて頂けるよう、スタッフがお手伝い致します。ご不明な点などあれば、お気軽にお声がけください。

【MRI 検査部門】

MRI 検査は強力な磁石の力を使い、体内の構造や血管などを見ることができます。CT 検査やレントゲン検査と異なり放射線を使わないため、被ばくすることはありません。当院には 1.5T（テスラ）の装置 2 台、3T の装置 2 台、計 4 台の MRI 装置があります。3T の装置は AI（人工知能）を活用した装置であり、従来のものと比べ、画質の向上と検査時間の短縮を実現しました。患者さんの負担を軽減し最善の検査を実施することを心がけ業務に従事しています。

MRI 検査室内では常に磁石の力が働いており、金属のものを持ち込んでしまうと、強い力で引っ張られ、装置についたまま外れない場合もあり危険です。また、金属によって検査画像にも悪影響となることもあります。検査の前に問診で金属の有無等を確認し、**金属の持ち込みを防止して、安全に検査を受けていただけるよう**に努めていますのでご協力下さい。

検査時間は部位によって異なりますが、30 分から 1 時間程度かかります。検査中に体が動くと画像に悪影響が出るため、患者さんとコミュニケーションを取りながら、検査中に安定した体位を保てるようにサポートしています。検査室内や待合室には、自然の風景画を取り入れ、**リラックスしていただける空間**を整えています。快適に検査を受けられるよう、環境整備にも力を入れています。不安な事や分からない事がありましたら、お気軽にスタッフにお声がけください。



【CT 検査部門】

CT 検査は X 線を利用し体の断面を撮影する検査です。当院では短時間で広範囲を撮影できる CT 装置を導入しており、5 分から 15 分程度で検査が終了します。検査によっては造影剤というお薬を注射して検査を行う場合があります。造影剤を使用することにより、見えにくかった腫瘍や血管などが明瞭になり、より詳細な診断が可能となります。CT 検査室では医師や看護師と連携して、最善の検査を実践できるように業務に従事しています。



当院では心臓の CT 検査や大腸の CT 検査等も行っております。心臓 CT 検査は、かつてはカテーテル検査を行うことでしか得られなかった心臓の血管（冠動脈）の狭窄等の情報を、簡便に得ることができる検査です。大腸 CT 検査は、大腸に二酸化炭素を注入し、膨らませて行う検査ですが、内視鏡に比べ苦痛が少ない検査となっております。CT 検査により様々な情報が得られるようになった現在、私たち診療放射線技師も知識と技術の向上に努めています。

当院には 4 台の CT 装置があり、年間で 33000 件程の検査を行っています。2024 年 9 月には最新の CT 装置と AI を駆使したソフトウェア（コンピュータに対して命令を出すプログラム）を導入しました。このソフトウェアにより、撮影から医師のもとへ画像が届くまでの時間を大幅に短縮できます。このような**最新の技術を駆使し、今まで以上に良い検査が行えるよう**に日々精進してまいります。

【核医学検査部門】

核医学検査はガンマ線を放出する放射性同位元素（RI）を微量に含んだ薬「放射性医薬品」を主に静脈から投与し体内に取り込ませます。その後、専用のカメラで読み取り、体内の RI の分布から体の各臓器の機能や代謝を画像化する検査です。例えば、脳の検査では脳血流を調べることで認知症の診断に用いられることがあります。

核医学検査部門における診療放射線技師の業務内容は、翌日の検査で使用する放射性医薬品の発注、放射性医薬品の調製、放射性医薬品投与の補助、検査の実施、検査後の画像解析と画像の提供、放射性廃棄物の廃棄などがあります。また検査で使用する装置が安全に動作することを確認するため、始業前点検や法律に基づいた定期点検を行っていますので安心して検査を受けて下さい。

核医学検査は検査の種類によりますが、投与後の待ち時間や検査時間が長い傾向があります。そのため患者さんの気持ちに寄り添い、**苦痛が少ない検査の実施と一人ひとりに合わせた画像提供**を心がけています。また、装置や検査の方法も日々進化しており、外部施設との連携や勉強会に参加することで知識と技術の向上に日々努めています。検査について相談したいことがございましたら、遠慮無くスタッフにご相談ください。



【放射線治療部門】

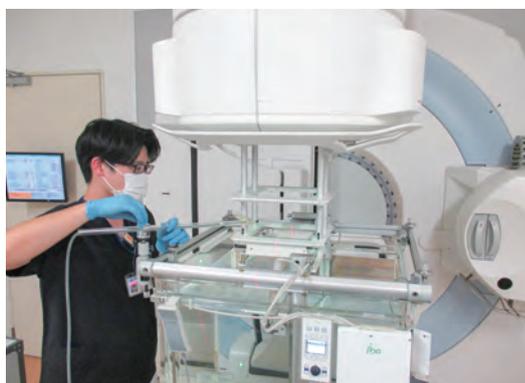
がんの治療といえば、手術治療や薬物（抗がん剤）治療があることはみなさんご存じかと思いますが、普段レントゲンやCTのように画像診断として馴染み深い「放射線」は治療にも用いられています。

放射線治療部では、放射線を使用したがん治療をはじめ、がんによる痛みを和らげる治療などを行っています。

放射線治療はまず治療計画用の CT を撮影し、得られたデータを基に一人ひとりに合わせた最適なプランを立案し、照射を行います。当院では左側の乳癌に対して心臓への被ばくを最小限におさえる深吸気下で照射を行う DIBH（深吸気息止め照射）や放射線強度を変えながら回転して照射を行う VMAT（強度変調回転照射）など高度な治療も行っていきます。正常組織はできるだけ傷つけず、悪いところにだけ効くよう、基本的に何日かに分割し照射を行います。

また、数 mm 程度のずれも補正するほどの高精度な照射を行うことが求められるため、**毎週厳密な精度管理**を行っています。なお、**第三者機関による線量外部監査**もっており、安全な放射線治療を提供しています。

放射線治療は専門性の高い部門であることから、現在 4 名の診療放射線技師が少数精鋭で治療を行っており、より質の高い放射線治療を提供できるよう日々努めています。



患者さん・ご家族へ

放射線検査に伴う被ばくに関する相談（被ばく相談）を承っております。被ばくに関して不安等がある場合は、診療放射線技師にお声がけください。

アスリート通信

埼玉医科大学グループ
アスリートクラブ

東日本実業団対抗 駅伝競争大会 (男子) プリンセス駅伝 (女子)

埼玉医科大学アスリートクラブ
(<http://www.smu-athlete.jp>)



〈プリンセス駅伝〉

10月20日に福岡県宗像市内全長42.195kmのコースで第10回全日本実業団女子駅伝（プリンセス駅伝）が開催されました。本大会は11月24日に宮城県仙台市で行われるクイーンズ駅伝の予選会となり、上位16チームに出場権が与えられます。

レースは序盤の1区から単独走の展開が続きましたが、選手一人一人が諦めることなく最後までタスキを繋ぎアンカーの古賀選手が19位でゴールしました。今回の経験を忘れずに来年のプリンセス駅伝で2度目のクイーンズ駅伝出場を目指します！沢山の暖かい応援をいただきありがとうございました！



〈東日本実業団駅伝〉

11月3日に埼玉県庁から熊谷スポーツ文化公園陸上競技場までの7区間76.9kmのコースで行われました。本大会は元旦に行われるニューイヤー駅伝の予選会を兼ねており、今回は12チームあった出場権が今年度は10チームに減ったため例年以上に緊張感の漂う試合となりました。



レースは1区川田選手が先頭から48秒差の7位でタスキを渡すと、2区のタイタス選手では順位を4つ落とし11位で3区の木樽選手へタスキを渡しました。木樽選手は坦々としたペースで前を追いかけ、順位を9位まで押し上げ、4区の長山選手が強い向かい風の中10位と2秒差の11位で耐えました、今回が社会人になって初めての駅伝となる5区小島選手は果敢な走りで後続を一分近く離す渾身の走りをしました。小島選手で11位から10位になり、6区内田選手、7区畝選手は追われる展開の中冷静にレースを進め見事10位で逃げ切り、ニューイヤー駅伝の切符を獲得しました！

ニューイヤー駅伝では日頃より応援してくださる方のために、一層練習と社業に努めて参ります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。



—基本理念— 当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利

3. ご自分の希望を述べる権利

4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

外来受診のご案内

診療日 月曜日～土曜日

休診日 日・祝日、年末年始（12/29～1/3）

診察時間 9:00～17:00

受付時間 8:30～17:00（初診の方 8:30～11:00、12:30～14:00（土曜日を除く）※）
※紹介状をお持ちの方のみ（一部診療科は除く）になります。

紹介状をお持ちの方は、事前に予約センターで電話予約をしたうえでご来院ください。

電話番号 049-276-1179

受付時間 8:30～17:00（月曜日～土曜日（日・祝日を除く））

新型コロナウイルス感染症に対する対応

新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、医療機関では高齢者など重症化リスクの高い人たちが集まるため、施設内において感染が拡がらないよう対策を続けていくことが求められています。

来院される際には今まで通り**手指衛生の実施**、院内では常に**マスク着用**をお願い致します。

最新の情報を元に、より良い感染対策を考え、患者さんに安心できる医療を提供できるようにこれからも取り組んでまいります。

駐車場のご案内



構内有料 駐車場

A 駐車場（障害者専用）、
B 駐車場、C 駐車場、
1ビル前駐車場（障害者専用）

→外来患者さんが最優先で駐車可能です。

構外提携 有料駐車場

上記以外のD-Parking
（白い看板）



→外来患者さんとお見舞いの方用になります。

検印

第1ビル駐車場管理室、
本館1階警備センター

→障害者手帳の交付を受けている方は、駐車券を手帳と一緒に割引処理窓口にご提出下さい。駐車料金が無料となります。

埼玉医科大学病院ニュース 第80号

発行日 令和6年12月1日

発行責任者 病院長 篠塚 望

編集発行 埼玉医科大学病院 病院広報戦略室

TEL 049(276)1121

FAX 049(294)8222

www.saitama-med.ac.jp/hospital/index.html

